世界旅打ち気分

●第68回・この夏行った英国の2競馬場

須田鷹雄

写真1）ウトセターの内馬場側から
レースを見る

写真2）奥の建物がホテル、
左側はスタンド背面

写真3）ウォルバーハンプトンの開催は
かなりカジュアル

https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/

この連載もネタ切れでいつまでやれるかという状況に陥ってだいぶ経つが、結局その間にどこか新ネタ旅打ちをしているので、なんだかんだ続けることができている。

この夏も、イギリスに行って未踏破場を3場ほど訪ねてきた。

最初に、イギリスで旅打ちをする場合の事情をお話ししておこう。イギリスの競馬場は鉄道の駅から近いか最寄り駅からシャトルバスが運行されることが多いので、レンタカーを運転できなくても実行できることが多い。

ただ今回私が行ったような、「辺鄙な土地かつ週末」ということになると、鉄道が役に立たなくなる。週末の運転本数が少ないからだ。今回の2競馬場はともにバーミンガムから近いので最初は鉄道を使うつもりだったが、時間が合う列車が無いので断念した。結局のところレンタカーのほうが便利ということになるし、レンタカーだと宿泊地も自由に選べるようになる。

最近はロンドン市内だとつまらないホテルでも1泊3～4万円とられるが、田舎に行けば半分以下で済む。レンタカー代を払っても採算は合うだろう。

さて、今回ご紹介する競馬場のひとつはウトセター競馬場である。カタカナ表記がこれでいいのか分からないが、横文字で書くならばUttoxeter競馬場である。今回は利用しなかった競馬場のすぐ横に駅があり、無人駅だが後で知ったところ、イギリスで最後に残った腕木式信号機があるとのことだ。3年前の口コミなので残っているか分からないが、鉄道マニアでもある方は無理にでも鉄道で行く価値があるだろう。

競馬場自体はおもいのほか立派で、スタンドのほか、内馬場側にも観戦エリアが広々と設定されている。チケットは、「内馬場のみ」「スタンド側にも入れる」「スタンド周辺の制限エリアにも入れる」「スタンド1階のバーにも入れる」といった区分があり、後のほうが値段は高い。暑い時期寒い時期は屋内に入れたほうがよいだろう。スタンド側に居ていいチケットを持っている人は、内馬場との間を行ったり来たりできる。つまり芝コースを歩いて渡れるわけで、日本では馬場開放のときくらいしかできない経験なので、ぜひ歩いてみてほしい。

競馬場グルメはというと、ちょうとしたビストロがあったりするのだが、レースを見ながらということを考えると時間を取られ過ぎる。スタンドの側面にはパイのお店とフィッシュアンドチップスのお店があり、筆者が訪問した日にも開いていた。ただスタンド内部にあるグリルカフェは閉店。開催の規模、入場者の多い少ないで開いているお店が変わるようだ。

筆者が行った日はファミリー層が多い日だったようで、内馬場のほうが賑わっていた。ちょっとした移動遊園地も来ていたし、食べ物もフードトラックが何台か並んで、スタンド側よりも充実していた。ちなみに筆者は「揚げた皮付き芋に煮込み肉をかけたやつ」を食べたのだが、当時の為替だと2400円。しかも行列が遅々として進まず、30分くらい待たされた。どう考えても飲食の列が馬券の売り上げを阻害しているように思うのだが、海外ではわりとよくあることだ。

パレードリングの雰囲気もよく、最前列には椅子が用意されていて落ち着いて見ることができる。内馬場の観戦エリアには、ゴール板のあたりに櫓状のものがあって、その上に乗ってレースを見ることもできる。日本なら妨害行為等を恐れてゴール板のとこに観戦台など作らないだろうが、文化の違いを感じる。来場者に楽しんでもらいたいという主催者の気配りが嬉しいところだ。

もうひとつご紹介したいのがウォルバーハンプトン競馬場。オールウェザートラックの競馬場で、それゆえ冬季などは開催数も多い印象がある。ここは鉄道駅に隣接しておらず、バーミンガムから鉄道で20分ほどのところにあるウォルバーハンプトンのバスターミナルからバスに乗り、最寄停留所から10分ほど歩くことになる。レンタカーだとバーミンガムから約1時間だ。

この競馬場には明らかな名物がある。競馬場に隣接して、ホテルが建っているのだ。ホリデーインホテルで、筆者はIHG系列の会員でもあるのでたいへんありがたい話である。

ただ、せっかく競馬場にホテルがあるのに、コースが見渡せる部屋はない。ホテルは競馬場スタンド裏手に、90度の角度で建てられているのだ。

スタンドの裏手にはパレードリングがある。なので、ホテルの部屋は「パレードリングが見える部屋」と「その反対側で見えない部屋」に分かれることになる。部屋の料金は「見える側」のほうがやや高く、それは非開催日であっても同様だ。非開催日にここに泊まる用事はそもそもないが……。

筆者はもちろんパレードリング側の部屋を取り、1レースの馬を部屋から写真と動画で撮影した。写真はガラスの映り込みがひどくて良いものが撮れなかったので、外からの写真2で雰囲気をご理解いただこう。背後の建物がホテルであり、左側がスタンド背面だ。

部屋でずっとパレードリングだけを見るわけにはいかないので結局のところ「部屋から競馬」は楽しめないのだが、レース終了後、誰もいない夜中の競馬場を見られるのは興味深い。深夜無人になった学校を見るようなスリルがある。

このホテルは、一部開催日（筆者が行った日もそうだった）は競馬場の入場門としての役割も果たしている。正規の入場門はパレードリングのスタンドと反対側にあるのだが、行った日にはホテルのロビーに馬主用の受付と一般客用の受付が設けられ、筆者も部屋から1階に下りて入場手続きをした。「競馬場の入場券＋レースブック＋飲み物1杯」というパッケージを事前購入していたのだが、ちゃんとパッケージ購入者の名簿が作られており、それなりにしっかりしたオペレーションだった。

レースはというとオールウェザーのコースでどうということはないし、飲食も一般エリアだとハンバーガー等の店が1軒とバーが1軒開いているだけ。ただ椅子とテーブルはたくさん用意されているので、非メンバーでもしんどいということはない。

開催はかなりカジュアルな雰囲気で、夏場はTシャツと短パンでなんの問題もない。イギリスの競馬というと構えてしまう人もいるようだが、たいていの通常開催・一般エリアは日本の競馬場とほぼ変わらない。

そしてこの競馬場の良いところは、（泊っていれば）一瞬で帰宅できるということだ。世界最短のオケラ街道である。ナイター終了後もホテルのバーがぎりぎり開いているので、「速やかなやけ酒」も飲むことができる。